



こころみ

2011. 12月 担当 教頭会

キャリア教育への取組について

学習指導要領改訂の基本に示され、今最も注目される「キャリア教育」。県教委も県内全ての小中高の担当者参加の下に「キャリア教育推進フォーラム」を開催し、現場に緊急性をもって取り組むことを求めています。大館市では学校教育推進目標「ふるさとに根ざし、自立の気概をはぐくむ学校教育の創造」の具現化へ向けて「大館ふるさと・キャリア教育」を進めています。市内の小中学校で、現在キャリア教育はどのように行われているか、推進する上での課題は何かをまとめてみました。

「キャリア教育の取組」～小学校編～（教頭会アンケートから）

◆「職場見学・職業体験」の取組

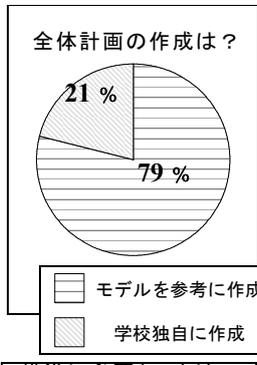
- 1 職業体験活動（総合的な学習の時間等） ・多岐にわたる様々な職種
- 2 いくつかの職業や産業にしぼった体験活動（総合的な学習の時間、各教科）
農作物の栽培・収穫・販売、稲作体験、漁業体験、保育体験、新聞記事を書く体験、和紙販売
- 3 訪問・見学・調査活動（生活科、社会科、総合的な学習の時間）
米農家、養鶏会社、医療機器メーカー工場、自動車整備工場、縫製工場、鉄工会社、菓子工場
曲げわっぱ工場、お寺、理容店、美容室、クリーニング店、商店街、花屋、菓子店、お茶屋
スーパーマーケット、呉服店、スポーツ店、コンビニエンスストア、ホテル、ケーブルテレビ
自動車屋、J A、バス会社、新聞社、観光施設、温泉、病院、接骨院、老人介護施設、
障害者支援施設、市役所、文化会館、消防署、警察、交番、公民館、図書館、郵便局、給食センター 他



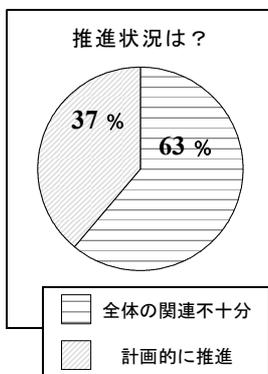
生活科
薬屋さん訪問

◆地域と連携した「キャリア教育」と位置付けている取組（主なもの）

- 1 地域の特色ある産業や伝統芸能等を取り上げ、年間を通して見学や調査、体験活動を行う。また関係者を招いて授業に参加してもらう等の活動を行い、PTAや学校行事に関連させた交流会や発表会、感謝祭等の活動につなげる。
- 2 福祉教育との融合として、年間を通して特別支援学校や保育所、福祉施設等を訪問し交流を行う。また、地域のお年寄りを継続的に訪問し交流を行う。
- 3 職業体験活動の発表会と合わせて、学校の卒業生を招いて講演会を開催する。
- 4 5年生で各種専門的職業の保護者を講師として職業について学び、6年生で職場体験を行う。



成した学校が多いが、独自の計画を作成している学校もあり、キャリア教育への意識が高まっていることが分かります。



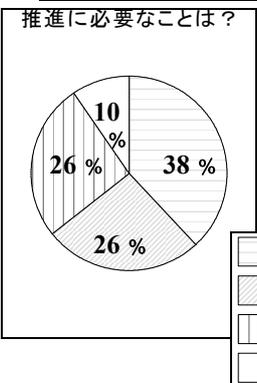
が半分以上でしたが、計画的に推進されていると答えた学校も30%を越えており、小学校でもキャリア教育の取組が着実に進められていると言えます。

キャリア教育が目指すもの

社会的・職業的自立に向けて必要となる力を育てる

《基礎的・汎用的能力》

- 人間関係形成・社会形成能力
- 自己理解・自己管理能力
- 課題対応能力
- キャリアプランニング能力



推進のために必要なことについては「目標や計画」「確かな実践」「職員の研修」の3つをあげた学校が多かったです。

- ◇大館市内の小中学校では、先進的取り組みとして釈迦内小学校が「地域と一体となり栽培から製品販売までを児童が行い、収益を教育活動に充てるプロジェクト」を実践し、学校や地域の特色を生かしながら教育活動全体を通したキャリア教育を行っています。
- ◇各小学校でも、職場見学や職業体験的活動が盛んに行われています。また地域と連携した特色ある取組もたくさんあります。しかし、断片的であったり体験活動が形式化していたりといった課題が見られます。
- ◇キャリア教育推進のポイント（文部科学省パンフレットから）
 - 1 目標設定＝目指す児童の姿を明確にする。
 - 2 指導計画の作成＝教育活動の中にあるキャリア教育の断片をつなぐ。
 - 3 確かな実践＝体験を通した確かな学びをさせる。
 - 4 適切な評価と改善＝児童の変化をとらえ次に生かす。
 - 5 職員研修の充実＝キャリア教育を理解し、自校の実態や目標を共有化する。
 - 6 校種間連携の推進＝小中高で引き継ぐキャリアノート活用等。

※大館市教育研究所が進めている「大館ふるさと・キャリア教育」の施策

- 実践の手引き
- 合同職員研修
- 職場体験先のデータ化
- コーディネーターの活用

「キャリア教育の取組」～中学校編～

◎各中学校の職場訪問・職場体験の実際

1 学年 大館市内または学区内の職場訪問・体験

主な訪問先 福祉施設 医療機関・薬局 自動車販売店・整備工場 和・洋菓子製造販売店
理容店 美容院 運輸関係企業 流通関係企業 クリーニング店 運動具店
飲食店 工務店 警察署 消防署 J A 市役所 など

2 学年 秋田市など県内・隣県の職場訪問・体験

主な訪問先 各種製造工場(電子部品 飲料 ガラス 陶磁器 花火等) 法律事務所
ショッピングセンター 放送局 動物園 医療機関・総合病院・薬局
ビル管理会社 など 大館市内では訪問・体験できない業種の企業や職場

3 学年 首都圏等の修学旅行先の職場訪問・体験

主な訪問先 情報関係企業 流通関係企業 音楽関係企業 医療機関・大学病院 金融機関
伝統工芸品(かんざし 提灯等)製造販売店 自動車関係企業・工場
高等教育機関・大学 など 秋田県内ではない訪問・体験業種の企業や職場



市内



県内



都内

中学校では、これまで学活の進路学習や総合的な学習の時間などで「職場の訪問・見学・仕事の体験」などに取り組んできました。市では「ふるさと・キャリア教育」に取り組んでいるので、ますます力を入れていくこととなります。その際、学区の小学校と中学校が情報を交換し、9年間の見通しをもって進めることができれば、児童生徒にとってより一層意義あるものになると考えられます。

その取組として、学区内の学校の学校便りや学年・学級の通信を交換して見合い、「こんな活動をしているのか」「こんな所へ出かっているんだ」と、お互いの事情を知ることが第一歩だと思います。また市教育研究会には小・中連携部会があり、連携研究会や合同の授業研究会などが行われています。これまでは、限られた時間の中で教科指導や児童生徒の情報交換が中心となっていました。これまでの「キャリア教育」や「職場訪問・見学」も話題に加えてみてはどうでしょうか。次のステップへつながることと思います。

学校種間の連携を活性化しよう

生涯にわたるキャリア発達を支援するキャリア教育では、小・中・高等学校を一貫した継続的・発展的取組が期待されています。小学校の職場見学、中学校での職場体験活動、高等学校での就業体験活動(インターンシップ)は、児童生徒のキャリア発達を促す大きな成果が期待できる教育活動ですが、学校種間の連携がないまま系統性、発展性を欠いた取組として実施されれば、それらは児童生徒にとっては新鮮さに欠け、かつ目的意識の低い活動、受入事業所にとっては負担感が募る活動になってしまいます。キャリア教育の推進にあたっては、学校種間で相互の取組の理解を深める機会・場の設定、児童生徒の学習・活動の記録等を引き継ぐ連携システムを作ることが必要です。…(後略)

「キャリア教育を創る」 国立教育政策研究所生徒指導研究センター刊 平成23年11月 p12参照